

進化の歴史

キリングループは、横浜・山手に設立されたジャパン・ブルワリーの経営を引き継ぎ、1907年に麒麟麦酒株式会社を創立したことから、その歴史が始まりました。以来、「商品の高付加価値化」「事業の多角化とグローバル化」「経営の高度化」に注力し、進化を続けてきました。

これからも創業以来のDNAである「イノベーションの追求」「お客様本位」「品質本位」を大切にし、変化する市場やお客様のニーズに応える「変化対応力」を強みに、企業価値の向上に取り組みます。

商品の高付加価値化

事業多角化とグローバル化

「進化の歴史」の詳細について、当社ウェブサイトに掲載しています。



「沿革」

<http://www.kirinholdings.co.jp/company/history/>

1888

「キリンビール」発売

本格的ドイツ風ビールとして、原料や設備をドイツから輸入、ドイツ人技師も雇い入れ、本物志向を買いた。

(麒麟麦酒の前身である、ジャパン・ブルワリーが発売)



1928

「キリンレモン」発売

お客様の安全・安心を考え、人工着色料を一切使わない清涼飲料「キリンレモン」を発売。



1986

「キリン 午後の紅茶」発売

日本初のペットボトル入りの本格紅茶。紅茶をどこでも気軽に楽しむという新しいシーンをつくり出し、瞬く間に市場を席巻。



1888

1980s

ジャパン・ブルワリー・カンパニーから麒麟麦酒創立へ

キリンビールは国内トップブランドとしてシェア60%に到達

経営を多角化。ビールを核にした豊かな暮らしを応援

1907

麒麟麦酒株式会社創立

ジャパン・ブルワリー・カンパニーの経営を引き継ぎ、岩崎家、三菱合資・明治屋関係者らによって麒麟麦酒株式会社を創立。



1970s

1970年代

第一次多角化の推進

清涼飲料・洋酒事業の育成強化に努める一方、食品分野に進出。1976年には小岩井乳業株式会社を設立し、チーズやバターなど乳製品の全国販売を開始。

1980年代

第二次多角化の推進

「長期経営ビジョン」において、多角化の推進を打ち出す。「非ビール5本柱」として、飲料・食品・ライフサイエンス・サービス・海外事業で事業開発を進める。



※ 医薬事業の本格参入として腎性貧血治療剤「エスポー®」を発売

2001
「キリンチューハイ 氷結®」
(現「キリン 氷結®」)発売
キリンビールの総合酒類化第一号として発売。缶チューハイ市場のメジャーブランドとして確かな地位を確立。



2009
「キリンフリー」発売
飲酒運転をなくしたいという想いから生まれた、世界初のアルコール0.00%のノンアルコール・ビールテイスト飲料。



2016
「47都道府県の一番搾り」発売
地域で暮らすお客様と一緒に、地域の魅力を発掘しながらつくり出す、特別な「一番搾り」。



2000
「生茶」発売
緑茶のおいしさに徹底的にこだわり、緑茶のうまみ成分を豊富に含む生茶葉抽出物を使用し、新しい発想と製法で緑茶のおいしさを開拓。



2002
「淡麗グリーンラベル」発売
糖質70%オフを実現した、からだも気持ちもこちよい発泡酒。健康系カテゴリーを確立。



2012
「グランドキリン」発売
クラフトビールによる、ビールの新たな楽しみ方を提案。



1990
「キリン一番搾り生ビール」発売
キリンビールにしかつくれない本流本物のビールを目指し、一番搾り麦汁だけを使用したビールを開発。



2012
「キリン メッツ コーラ」発売
特定保健用食品史上初のコーラ系飲料。食事の際に脂肪の吸収を抑える難消化性デキストリンを配合。



1990s

2016

「一番搾り」発売。
異例の大ヒットを記録

グローバル化を推進。
協和発酵キリン設立。

新しい飲料文化の
創出に取り組む

2000s

1998
ライオンネイサン(現・ライオン)に資本参加
オセアニアで事業を展開するビール会社、ライオンネイサンに資本参加。また、中国での事業も積極的に展開。



2006
メルシャンに資本参加
ワイン・焼酎・洋酒などを製造販売するメルシャンに資本参加。2007年以降、キリングループのワイン事業の中核となる。

2011
スキンカリオール(現・ブラジルキリン) 100%子会社化

2008
協和発酵キリン株式会社設立
2007年に資本参加した協和発酵工業とキリンファーマが統合して誕生。日本発の「グローバル・スペシャルティファーマ」を目指す。

2015
ミャンマー・ブルフリー買収
ミャンマー市場において約8割のシェアを有するミャンマー・ブルフリーの発行済株式総数の55%を取得。

